

・ き ・ れ ・ い ・ に ・ 暮 ・ ら ・ す ・

# 奈良県スタイルジャーナル

vol. 8  
March  
2019

～ 奈良らしい景観を目指して～



NARA PREFECTURE  
奈良県



今も  
これからも、  
秋篠川の桜は  
歴史と人を  
結びます

秋篠川沿いの自転車道を彩る桜並木

**なら四季彩の庭  
平城京ゆかりの地に桜を**

奈良県植栽計画「なら四季彩の庭」。県内随所にある名所などを「小庭」としてとらえ、四季の彩りを楽しめるような庭づくりを市町村、地元団体、住民等と協働で行うことで魅力を向上させ、それぞれの「小庭」が役割を果たしながら集まることで県全体が調和のとれた大きな「一つの庭」となるよう景観を整えます。その中の「西の京エリア」において、桜の植樹、維持管理活動などに取り組んでいるのが「秋篠川 桜の会」です。発足のきっかけは平城遷都1300年祭。この記念すべき大祭を前に「平城京の地元として次の世代に残せるものはないか」という声が上がリ、平城京にゆかりのある秋篠川に着目しました。秋篠川は、平城京の大通りと平行して直線状に造り替えられた人工河川と言われています。川沿いに世界遺産の唐招提寺や薬師寺があり、平城宮跡近くの堤防から



秋篠川 桜の会  
会長 松本 武彦氏(右)  
(左は北中副会長)

川沿いの桜を見ながらジョギングや散歩を楽しむ人が増えました。たくさんの方が集う場を作りたかったのです。そうすることで出会いや会話が生まれるのではないのでしょうか。



秋篠川クリーンキャンペーン

斑鳩の里へ続く自転車道も整備されるなど奈良の歴史を存分に体感できます。そんな歴史とゆかりの深い秋篠川で何か出来ないかと意見を持ち寄り、熟考した結果、日本を象徴する花木として親しまれる桜を植樹しようとなったのです。「桜の会は平成21年1月に自治会長、各種団体長らと協議し「秋篠川に桜を育む協議会」として設立されました(平成26年6月現名称に改称)。後世に何かを残そうというのがテーマでしたが、みんなで喜びや感動を共有できる癒しの場が近くにあればいいと話し、集まってくれた仲間も桜が好きだったので、話が盛り上がりました。川沿いに桜の小道を整備することは、平城宮跡と唐招提寺、薬師寺を結ぶ意味もあります。それまで点だったスポットを桜の小道で結ぶことで、散策がてら歴史に触れることができるようになります。景観づくり、環境保全、歴史とのふれあい、その全てを桜の小道が満たすのです。」

**住民の思いが原動力**

現在の会員数は約400名で、年会費などが活動費となり、苗木の購入や植樹、維持管理をはじめ、会報の発行、イベント運営などを展開しています。「会員募集は年度始めに行いますが、会員数は減少傾向なので役員たちで募集チラシを作りポスターティングしています。会員数が減少しているとはいえ、400名の方が賛同してくださるのは本当にありがたいですし嬉しい限りです。」

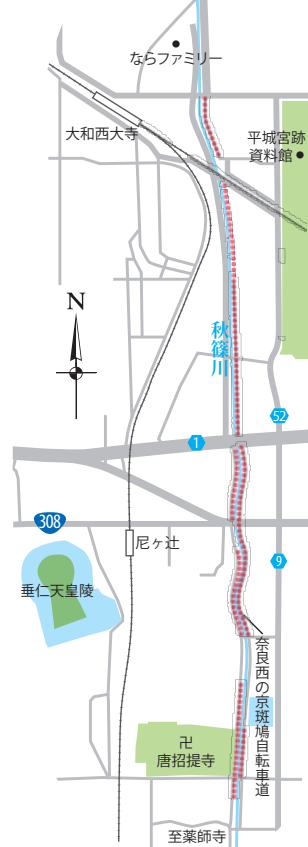
会員の確保は重要な課題で、多くの方に興味を持ってもらえるような魅力ある活動をやることで、「私も参加したい」と言ってもらえるようにしたいと思っています。





「秋篠川 桜まつり」 唐招提寺東側広場

「秋篠川 桜まつり」 唐招提寺東側広場  
 ゴミが減っているといえます。「全く  
 ゴミがなくなった訳ではありません  
 が、綺麗な所にゴミは捨てにくい  
 すからね。いい連鎖が生まれている  
 と思います。周りの方の意識も変わ  
 ってきています。クリーンキャンペ  
 ーンや、唐招提寺東側の広場で桜の会  
 が主催する「桜まつり」に「協力さ  
 せてほしい」という声をいただくよ



**豊かな景観と良好な環境のために**

当初の活動から大きく変わったことがあります。  
 それは環境保全や地域交流にも活動の幅が広  
 ったこと。「平成22年3月に植樹を始め、さまざま  
 種類の桜をこれまで200本以上植え、育成してき  
 ました。その彩りは秋篠川のほとりを明るくしま  
 すが、桜ばかりが美しくもいけません。川も周りも  
 綺麗だからこそ桜が引き立ち、人が集まり、街の活  
 性化につながると考えています。そこで都跡地区社  
 会福祉協議会が主催していた「秋篠川クリーンキャ  
 ンペーン」を平成25年度より継承し、私たちが実施  
 しています。さらに今年度より開催を原則年1回か  
 ら2回に変更しました。40〜50名の  
 方が参加してくださり、二条町から  
 五条町に至る秋篠川沿いでゴミ拾い  
 をしています。」清掃活動は多くの  
 人の目に入っているようで、ゴミの  
 量が減っているといえます。「全く  
 ゴミがなくなった訳ではありません  
 が、綺麗な所にゴミは捨てにくい  
 すからね。いい連鎖が生まれている  
 と思います。周りの方の意識も変わ  
 ってきています。クリーンキャンペ  
 ーンや、唐招提寺東側の広場で桜の会  
 が主催する「桜まつり」に「協力さ  
 せてほしい」という声をいただくよ



唐招提寺東側広場での植樹作業



桜の様子を見る吉村副会長

うになりました。こういった声を聞くと、桜の会が  
 地域に密着してきたかと思えます。昔は植樹に消  
 極的な人もいままでね、枯れ葉が散る、毛虫が発生  
 するなどと言われましたから。でも最近はそんな声  
 も聞かず、いい方へ向いていると思います。」

**桜を見守り、手を掛けます**

川沿い約2.5kmにわたり植樹された200本以上  
 の桜。その一本一本の様子を定期的に自転車で見  
 回っています。「桜の世話は知識のある方の協力を  
 いただきながらも独学に近いです。植樹後、苗木が  
 安定するまで夏場は毎日水やりをし、施肥や草刈り、  
 害虫駆除もしています。殺虫剤や道具を携えて川沿  
 いを往復している時、通りすがりの方が「苦労様  
 」「咲いてきましたね」と声を掛けてくださいます。  
 そんな声を聞くと皆さんも桜を気に掛けてくれてい



平城遷都1300年記念桜植樹の記念碑



**笑顔が溢れる桜の小道へ**

活動は桜の植樹から始まり、維持管理、清掃活動、  
 イベントの企画・運営など、多岐にわたります。  
 「目指すのは桜を中心とした交流の場づくり。「桜  
 まつり」ではお茶の振る舞いや演奏会、写真展など  
 で賑わいを見せます。最近はずいぶん客の団体や  
 リュック姿のグループを見かけるようになりました。  
 今後は地域密着・活性化を目指し、他の団体と連携  
 した活動をしたり、県や市の行事に協力させても  
 らったりしたいと思えます。より地域に密着するこ  
 とで多くの世代に桜の会の存在を知っていただき、  
 興味を持っていただくことで活動に参加していただ  
 く。地域密着はメンバーの世代交代にも大きな意味  
 があります。」これからも秋篠川の桜は歴史と人、  
 人と人を結び続けます。

るのが分かり嬉しくなります。往復するだけで汗た  
 くになり作業も大変ですが、そんな声を聞いた時は  
 汗がひいていく気持ちよさがあります。」

自然を愛する気持ちで、  
歴史ある奈良の景観を  
守ります



里山入口 美しい森は清流の母



親子木工体験



親子森林体験で立ち杉の皮はぎ

**ホタルを守ることが始まりでした**

奈良の歴史的風土を後世に残す…その実現のため、古都法（古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法）により春日山歴史的風土特別保存地区で県が買い入れた土地とその周辺で、自然環境の保全活動に取り組んでいるのが「高畑自然教室」です。その活動は、春日山原始林を源流とし高畑界限へ流れる能登川のホタルを守るプロジェクトから始まりました。「ホタルを守るには能登川の水質改善だけでなく里山の保全も必要と考え、県に相談する中で古都法買入地の景観形成ボランティア募集を知り、里山整備プロジェクトを始めました。新薬師寺の方から見てこもり茂ったのどかな姿の杉林が活動地です。当初は鬱蒼としていましたが、間伐で明るくなり、今では散歩に来る人もいます。他に春日山原始林で花散歩というプロジェクトをつくり、植物や生き物の観察会をしています。また、親子体験プロジェクトとして森林体験や木工品を作るイベントを開催し、自然をより身近に感じ、楽しんでもらえるようにしています。」

**自分たちも楽しみたいと**

会員はシニア世代を中心に現役世代や子供まで53名で、一級建築士や学校の先生、



高畑自然教室  
校長 太田 威夫氏

活動には「自然が好き」という気持ちがあれば十分。興味や好奇心があれば、山でやることはいくらでもあります。

営業、銀行員、専業主婦などバラエティーに富んでいます。会員募集は主に奈良市ボランティアインフォメーションセンターで行っています。「ボランティアなので人や社会の役に立つ活動はしますが、それだけではないかと思っています。まず私たちが活動を楽しみたいといけないのではないのでしょうか？例えば間伐材で何かを作る場合、メンバーの一級建築士が設計してくれるのですが、一口なら簡単に作れるでしょう。でも私たちは試行錯誤しながら作ります。私自身丸ノコなどの電動工具などを持ったことがなく、木を一枚の板に加工したり、それで何かを作ることなんて出来ませんでした。が、やっているうちにスキルが身につく、ものづくりの楽しさ、充実感が生まれます。」

**県に評価をいただきました**

里山整備やイベント開催などの活動資金は、県青少年・社会活動推進課が所管する「奈良県地域貢献サポート基金」からの助成を利用してきました。この基金は県民や企業の寄付が原資となり、地域の課題解決の取り組みや活動団体を助成するものです。また、県から借りている古都法買入地で、里山整備に伴う間伐材や台風による倒木が森林内に溢れるようになり、その処置について県に相談したところ、



自然教室で「教頭先生」と呼ばれている依藤さん

里山整備活動の範囲内で間伐材などの有効利用が可能ということなので、木工品に加工し活動資金の一部に利用しています。「これも私たちの取り組みを県が評価してくださったからであり、大きな自信となっています。」

## 感動がいっぱい

県との信頼関係を築くうちに可能性が広がりを見せます。「活動を広げようと県に相談し、別の場所にある古都法買入地の使用許可をいただきました。竹が密集した放置竹林で、一本ずつ間伐しては枝を払って集めるという作業の繰り返しで、まさに「開拓」でした。竹林整備など経験がなく、インターネットで調べながら、「竹と竹の間は大人が傘をさして歩ける位が望ましい」などの情報を参考に整備を進めました。一昨年から整備を始め、二年目にはタケノコも採れ、学びと喜びと感動の経験でした。」

## 自然は一番の先生

団体名を「教室」としているのは、「自然は先生」という思いから。「サイエンスは自然観察から生まれる学問。そういう意味では自然が一番の先生だと思っています。私も子供時代は自然に親しみ、サイエンスを学び、技術に携わる道を見つけました。ですから子供たちにも活動から何かを発見してもらえればと思います。」



親子活動で菌打ちした椎茸園



休憩スペースのテーブルや腰掛けは全て間伐材を有効利用して自分たちで作ったもの。他にもさまざまなワークショップイベントに活用しています。



昨年の台風 21 号で裂けた杉



昨年の台風 21 号で倒れたクヌギ大木



クヌギ倒木の整備

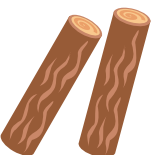
## みんな自然が大好き

イベントをする中で感じるのは「みんな自然が好き」ということです。例えば親子で七草を摘むイベントで七草の話をする時、子供たちは「これは？」と質問しながら摘み、家に持ち帰って庭に植えたり、七草粥や料理のソースを作ったりと楽しんでくれたそうです。ホタル観賞会では、ホタルは少なかったのですが飛んでいる姿を見ただけで子供たちが喜んでくれ、そんな姿を見て「数ではなく自然の中で飛ぶ姿に感動している。子供たちは自然と触れあうきっかけが少ないだけ」ということを実感しました。リクエストからイベントを開催することもあります。「スライド式の本箱を作りたい」という子供さんの意見がありました。複雑なものには難しいのでメンバーの一級建築士が小学生でも作ることでできる設計にしてくれました。作る時も小学4年生ぐらいの子なら、大人が付き添った上で電動工具も使わせます。危険かもしれませんが「危ない」と分かれば自分から気を付けるし、お互いに注意し合っ。子供の学ぶ力、吸収力は凄いです。」

## 今後の活動は柔軟に

今後の活動については固定した方針は設けていません。「時代と共にやりたいことも変わると思っています。ただ消滅しないよう会則と組織はきちん作り、私たちがいなくなっても自然に親しむという趣旨から大きく逸脱しなければ教室は残るかなと思っています。」

「高畑自然教室」は、景観づくりの活動を通じて、自然に触れる楽しさや歴史的風土を後世に伝える活動に日々取り組んでいます。





美しい村、きれいな奈良を願って  
始めた植栽活動

文化遺産でありシャクナゲの名所でもある室生寺周辺の向漕地区で、県道28号吉野室生寺針線の景観づくりに取り組んでいるのが「向漕を美しくする会」です。今から25年ほど前、県の補助事業としての美化運動が役場から紹介されたのをきっかけに今西会長が自治会に呼びかけ、コスモスを県道沿いに植え



村を愛する  
真面目な  
気持ちで、  
美しい  
景観の  
「源」です



向漕を美しくする会  
会長 今西 良助氏

後継者の問題もありますが、今はメンバーが責任感を持って取り組んでくれていますので、少しずつ次の世代にバトンを渡せるように出来たらいいですね。

る活動を始めました。「コスモスは庭先や空き地にたくさん生えていたので苗を集めやすいですから。沿道に500〜600本のコスモスを植え、”コスモス街道”という看板も立てました。県道28号は針インターから名張市へ続く道路で交通量が多くゴミのポイ捨ても見られたので、花を植えることでゴミが減り道路や風景がきれいになればと始めました。」

ずっと続けたいから無理のない活動に

当初から多くの住民が協力的で、現在約30名が活動しています。「自治会のみんなは真面目でまとまりが良く、“村のために何かできれば”と積極的なんです。」そんな思いがあるからこそ活動は続けられるものでなければと考え、無理のない内容にしているといいます。「コスモスは背が高くなると風で倒れ、起こすのが大変です！道路沿いの作業は高齢者では危ない。そこで、村でマリーゴールドを育て



葉ボタンの植栽作業

ている人がいたので、その苗づくりをみんなで始め、コスモスの代わりに植えるようになりました。苗づくりは年長の方に、植栽作業は若い人をお願いするなどして、それぞれが出来ることをしています。」

「奈良の玄関口」。

だから責任をもって取り組みます

県の「みんなで・守り道事業」に参加したことで、苗が支給されるようになりました。現在は葉ボタンやパンジーを植えています。「県道を管理する宇陀土木事務所が、協力したい」と葉ボタンの苗を用意してくれましてね。パンジーと合わせて800株にもなります。植栽作業は大変ですが、「花の村」として評判になり、活動を見てもらうことで村のPRもでき満足感があります。」村がすり鉢状の地形ゆえ日照時間や植栽場所が少ないことに加え、それぞれ仕事をしながらの活動のため、花の世話をどのようにするかなど考えることが多いですが、今後も植栽活動を通じて村に貢献したいという今西会長。

「ここには国宝室生寺や龍王ヶ淵、天然記念物のすずらんなど歴史や自然の見所が多く、三重県の名張市方面から見れば奈良県の玄関口になるので、今後も責任をもって活動を続けていきたいです。」



整えられた花壇



半夏生の美しさと、  
御杖の自然を  
これからも守ります



岡田の谷の半夏生園

半夏生の美しさに惹かれて県内外から

奈良県植栽計画「なら四季彩の庭」の「御杖・三峰山周辺エリア」には三峰山の霧水や不動の滝など自然の美しい場所が多く、その中でも岡田の谷の半夏生園は夏の観光資源として村に活気をもたらします。七十二候「半夏生」の頃（7月初旬）から葉が白く色づきはじめ、見頃は一週間ほど。森林に囲まれた約3,000㎡の半夏生園を美しく彩り、メディアにも取り上げられました。今では自生地減少で県の希少種に指定されている植物で、その美しさを一目見ようと、写真愛好家や家族連れなど県内外から多くの観光客が訪れます。

まずは半夏生を知ることから  
スタートしました

元々は個人所有の棚田でしたが、耕作をやめた後に所有者が半夏生を植えたところ群生していき、その美しさが話題になるようになりました。そんな中、観光振興につなげようと所有者にお願いをし、御杖村が管理することになりました。「1〜2月は霧水、4〜5月は桜や白ツツジときて、夏場の見所がありませんでした。そこに半夏生を入れることで、秋の紅葉を含め年間を通して御杖村に足を運んでいただくと考えています。管理を引き継いでもの、はじめ



は半夏生の育て方が分からなかったので色々調べて

知識を付けました。結局、生命力の強い植物なので過度な手入れは不要と分かりました。」以来約10年、村内における保護景観エリアとして指定を受け、奈良県植栽計画に基づき、県の補助金を活用して「獣害防止柵や遊歩道、ベンチを整備しました。また、訪れる方の駐車場の確保や案内看板の設置など、観光地としての環境整備も進めています。」

ありのままの自然を楽しんで欲しい

種々の整備を進める中でも「自然らしさ」を残すことを大切にしています。「獣害防止柵や看板は必要ですが、いかに自然を壊さずにそういった人工物を景観に溶け込ませるかが課題ですし、都会にはない御杖村の自然そのものをもっとアピールしていきたいと思っています。これからは御杖村らしい自然や景観を楽しんでいただける取り組みをしていきたいと思っております。」



獣害防止柵の整備



草刈り作業



奈良県植栽計画のプレート



整備されたベンチ

## 奈良県景観資産のご紹介

### 奈良県景観資産を訪れてみませんか？



県内の素晴らしい景観、守りたい景観を、テーマを定めて一般公募の上審査し、161点を奈良県景観資産として登録しています。

奈良県ホームページ「奈良県景観資産総合案内所」をご覧ください、お出かけ先にごぜひご検討ください。

URL

[http://www.pref.nara.jp/keikan\\_shisan/](http://www.pref.nara.jp/keikan_shisan/)



梅林が眺望できる賀名生の里



神野山山麓から見下ろす茶園

## 奈良公園バスターミナルが4月13日(土)にオープン！

奈良公園周辺の交通渋滞の緩和、周遊環境の向上を目的とした「奈良公園バスターミナル」が、県庁舎東側にオープンします。

バスターミナルには、観光バスの待ち時間や休憩時間を快適に過ごしていただけるよう展望の良い休憩スペースや飲食・物販店を設けるとともに、奈良公園や周辺地域の歴史・文化を学習できるコーナーなどを整備し、奈良公園の魅力を一層充実していきます。



〈お問い合わせ先〉 県奈良公園室 TEL：0742-27-8036



レクチャーホール



展示室完成イメージ

## 平成30年度きれいな奈良県づくり功労賞受賞者が決定しました！

### きれいな奈良県づくり功労賞とは

「きれいに暮らす奈良県スタイル」行動計画に基づく各主体の実践活動を促進し、全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、行動計画の推進に貢献している団体・事業者、個人に対して、「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会会長（奈良県知事）より表彰するものです。

#### ■受賞者一覧（11件、敬称略）

##### 【川のきれいな部門（4件）】

- ・奈良県立王寺工業高等学校
- ・ボランティアグループ アクアグリーン
- ・奈良県御所市柳原婦人会
- ・山崎 元造

##### 【景観づくり部門（5件）】

- ・ECOKA委員会
- ・竜田公園を愛する会
- ・万葉飛鳥川長寿散歩道の会
- ・やまと郡山環境を良くする市民の会
- ・松浦 靖彦

会長（奈良県知事）より表彰状が授与されました。（平成31年2月13日）



受賞された皆様

##### 【循環型の生活スタイル部門（2件）】

- ・特定非営利活動法人 関西ワンディッシュエイド協会
- ・JAならけん女性部

## きれいに暮らす 奈良県スタイルジャーナル 第8号

2019年3月発行

奈良県植栽計画  
「なら四季彩の庭」

<http://www3.pref.nara.jp/syokusai/>



発行  
奈良県くらし創造部  
景観・環境局 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町 30

TEL：0742-27-8732 FAX：0742-22-1668



奈良県エコキャラクター  
「なへらちゃん」